

② わかっていることは、省略される

上の例文(ア)で、「エルフのことを話します」と言っているのは、一体だれなののでしょうか？ この文には「だれが」にあたるパーツがありません。実は、ここには書いてありませんが、この話をしてしているのは、エルフを可愛がっていた男の子なのです。話をきいている人(読者)は、その男の子が話していることを知っているので、「ぼくは」は省略されているのです。このように、日本語では、すでにわかっていることは、省略することが多いのです。ですから、本当は、詳しく書くと次の文になります。

「(ぼくは) エルフのことを話します」

③ 日本語に語順はない

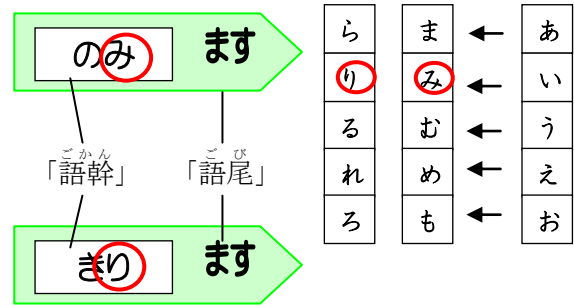
次は、前頁(イ)の文を見てください。情報の部分に、「エルフは」と「せかいで」の二つがあります。この二つのパーツを入れ替えて読んでみます。そうすると、「せかいで エルフは いちばんすばらしい犬です」になります。このように、日本語では、情報と情報であれば、パーツを前後で入れかえることができます。(※この時、助詞もセットで動かします)

「エルフは せかいで いちばんすばらしい犬です」
↙ ↘
「せかいで エルフは いちばんすばらしい犬です」

② 活用のルール

ア. 動詞の活用

動詞の変わり方には3つあり、グループに分けることができます。どの動詞がどのグループに入るかは、「～ます」の形(ます形)に見分けることができます。



☆1グループ動詞の活用

「飲む」「切る」を例に考えてみます。

① 動詞を「～ます」にした時、「ます」(語尾)の前の文字が、50音表のどの段にあたる

のかを見ます。「飲みます」「切ります」は、どちらも「イ段」ですね。「イ段」になる動詞は1

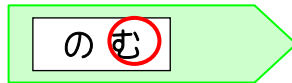
グループの動詞と言い、下の表のような変わり方をします。(「行く」→「行きます」など)

② 「飲む」の「た形・て形」は「飲んだ・飲んで」と、「ん」に変わります。また、「飛ぶ」「死

ぬ」→「〇んで」、「買う」「立つ」「降る」→「〇って」、「書く」→「〇いて」など変わり方の

ルールがあります。ただし、「行く」だけは「行いて」ではなく「行って」です。

☆1グループ動詞の活用例



の ま	の め	の ん	の ん	の も	の め	の め	の む	の み	の ま		
れる	る	で	だ	う	!	ば	。	ません せん	ました た	な か っ た	い ない
受 身	可 能	て 形	た 形	意 向	命 令	仮 定	基 本	ていねい形 (ます形)	否定形 (ない形)		

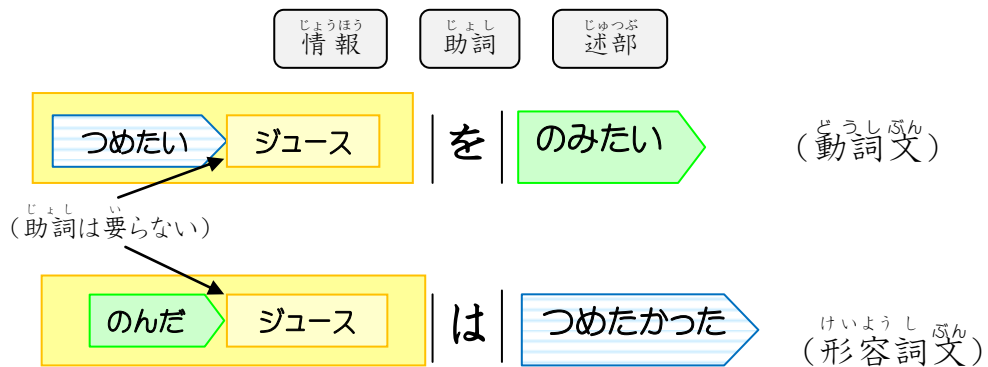
(語幹)
(語尾)

ま
み
む
め
も

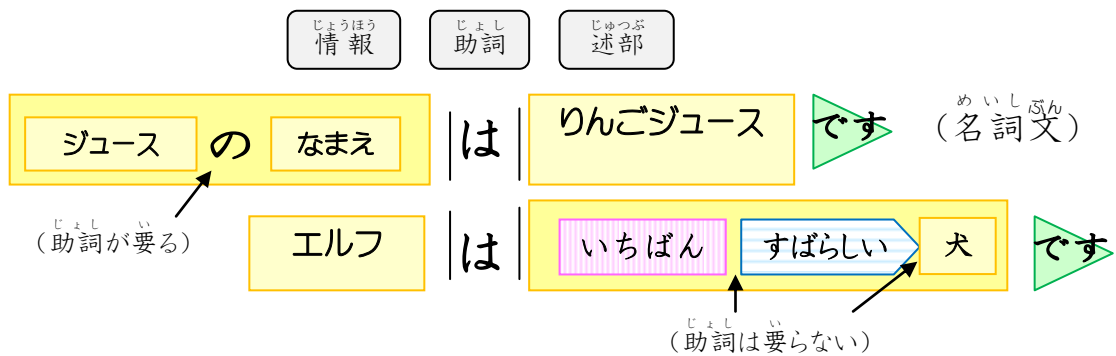
④ なが ぶん つく かた 長い文の作り方

めいし けいようし どうし じゆつぶ つか した ぶん
名詞や形容詞や動詞は、述部に使われるだけでなく、下の文のように、
じょうほう 情報のところある名詞の前に出て、名詞を説明する使い方ができます。そ
して、どうし 動詞や形容詞は、名詞の前に出ると、じょし 助詞が要らなくなります。

○ けいようし どうし じょし つか かた 形容詞・動詞+名詞の使い方

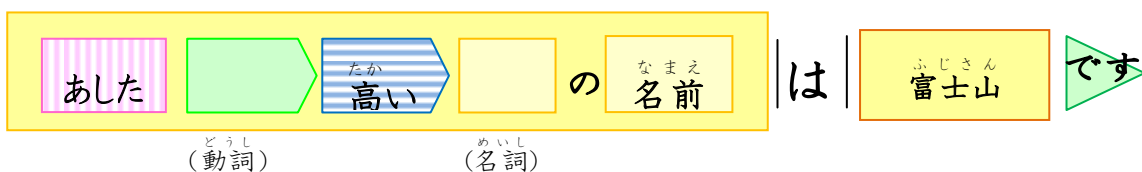


○ めいし めいし つか かた 名詞+名詞の使い方



練習

つぎの ひんし 品詞カードに ことばを か 書きましょう。



② もし、「が」と「を」の位置が、逆になったら？

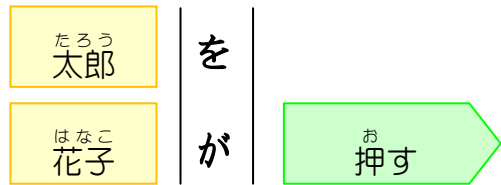
では、もし、「太郎が 花子を 押す」の文で、「が」と「を」の位置が逆（反対）になったら、どうなるでしょう？ 文は、次のように変わります。

「太郎を 花子が 押す」

文の意味はどうなるでしょうか？

もちろん、変わりますよね。「が」は、「太郎」ではなくて「花子」にくっついていて、花子が押すことになりますね。絵も右のようになります。

情報 助詞 述部



練習2 絵に合う名詞を入れましょう。

① 太郎 花子

	が	たた叩く
	を	

② 太郎 花子

	が	たた叩く
	を	

問題 15

□の中にある 動詞は、どの文型に 合う動詞でしょう？

下の基本文型の表に 動詞を 書きましょう。【14点】



- ・出る ・着く ・出会う ・開く ・転ぶ ・借りる ・生まれる
 ・けんかする ・別れる ・作る ・通る ・もらう ・行く ・なる

基本文型	文型と例文	動詞
I. ~が+	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-right: 5px;">が</div> <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> </div> <p>「妹 <u>が</u> 泣いている」</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px;">起きる</div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px;"></div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px;"></div> </div>
II. ~が~ を+動詞	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-right: 5px;">が</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-right: 5px;">を</div> <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> </div> <p>「姉 <u>が</u> さいふを <u>お</u> 落とした」</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px;">追いかける</div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px;"></div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px;"></div> </div>
III. ~が~ に+動詞	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-right: 5px;">が</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-right: 5px;">に</div> <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> </div> <p>「父 <u>が</u> 母 <u>に</u> あやまる」</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px;">反対する</div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px;"></div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px;"></div> </div>
IV. ~が~ と+動詞	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-right: 5px;">が</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-right: 5px;">と</div> <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> </div> <p>「ぼくは 次郎 <u>と</u> たたか <u>戦</u> った」</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px;">結婚する</div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px;"></div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px;"></div> </div>
V. ~が~ に~を+	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-right: 5px;">が</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-right: 5px;">に</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-right: 5px;">を</div> <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> </div> <p>「母 <u>が</u> 父 <u>に</u> 弁当 <u>を</u> わた <u>渡</u> す」</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px;">貸す</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px;">教える</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px;"></div> </div>

(1) 場所に関わる助詞「に・で・を」

3頁の『助詞記号・助詞手話記号一覧』を見てみましょう。助詞がどのような時に使われるのか一覧表にしてあります。その表の中の「場所」と書いてある所に助詞が3つありますね。ここでは、「場所」に関わる3つの助詞「に・で・を」について学習します。それぞれ「～に行く」「～でする」「～を出る」と、助詞と動詞をセットにして覚えておくと便利です。

「場所」に関わる助詞「に・で・を」

「行く」グループの動詞	「する」グループの動詞	「出る」グループの動詞
どこ  行く	どこ  する	どこ  出る
 (目的地) 	 (動作をする場所) 	 (出発点) 
 「バスに 乗る」	 「バスで 寝る」	 「バスを 降りる」
 「プールに 入る」	 「プールで 泳ぐ」	 「プールを 出る」
 「家に 帰る」	 「家で 休む」	 「家を 出る」
あつ 集まる、い 行く、あ 上がる、く 来る、つ 着く、のぼ 登る、もどるなど	た 食べる、の 飲む、あそ 遊ぶ、する、つく 作る、み 見るなど	さ 去る、しゅつこう 出港する、しゅつぱつ 出発する、そつぎょう 卒業する、はな 離れるなど

解答と解説編—保護者と先生方のために—

ここからは問題の解答と解説です。問題の解答は正しい答えが一つだけの場合もあれば、それ以外に正解がある答えの場合もあります。答えが複数考えられる場合は、ここでは代表的な答えだけをあげています。解説は、きこえない子が陥りやすい日本語の文法的な誤りや日本語習得で大事な点を解説します。

また、このテキストには動詞が約180語、形容詞20語掲載されていますが、それらの活用については、別に学習が必要なので、『動詞・形容詞活用練習ノート』としてCDを制作しています。そちらをお使いいただければと思います。(問合せ先: 難聴児支援教材研究会 FAX0480-34-9631 木島)

第1章 文のしくみと文の作り方

◎第1章の学習のねらい①～まず、語彙のチェックを！

第1章では、文は単語が集まってできていること、単語はそれぞれ同じ仲間に分類でき、「名詞」「動詞」「形容詞」「助詞」といった名称をもつこと、単語の並べ方には一定のルールがあること、ルールに沿って単語を並べることで正しい日本語が作れることなど、日本語の読み書きの基本的なことを学習します。

日本の小学校教育の「国語」では、ここで取り上げたような**語彙**や**文法**の学習が丁寧に取り上げられることはほとんどありません。それは、きこえる子にとってはすでに既知のことをみなされているためです。そのため、きこえる子に「準じた」教育の中では、スタート時点から多くのきこえない子たちが落ちこぼされていきます。こうしたことを防ぐためには、**国語の前の日本語の指導**がどうしても必要なのですが、「自立活動」という教科があっても、十分に成果をあげているとは言い難いのが実情です。

では、きこえない子たちはいったい、どこで躓いているのでしょうか？ まず一つ目は、就学までに習得する**日本語の語彙の少なさ**です。通常、きこえる子は、個人差はあっても、3歳で1000語、6歳で3000語は獲得するといわれます。小学校1年の国語の教科書は、その前提で作られています。そこで就学前のきこえない子の獲得語彙数をチェックしてみますと、(*『おやお手話じてん』の語彙チェックリスト1,300語を使うと、手話と日本語の両方で調べることができます)、手話ではほとんどわかっても、「日本語で」1000語以上わかる子は、半数いないのが実情です。とりわけ少ないのが**動詞**です。文は動詞を土台にして作られていますから、動詞の数の不足は、読み書きにおいては致命的です。小学校1年国語教科書に出てくる動詞の数はだいたい**250語**程度ですから、とりえず就学までに、このくらいの数の動詞を習得することが必要でしょう。

手話ではわかるのに日本語ではわからない・・・ということの原因の一つは、**単語レベルでの手話と日本語の変換・結びつき(翻訳・互換性)**ができていないからです。このテキストの第1章では、日本語と手話の語彙の結びつきも学習できるようにしてありますが、もし、子どもの「日本語の単語の数」がやや少ない」と実感されたら、知っている手話(つまり日常生活の中でその語の概念はつくられている)を日本語でもわかるように学習し直すことです。それは今からでも遅くはありません。

「品詞カード」の作り方 (黒板用・大)

準備するもの

- ・色方眼紙(黄色・ピンク・薄緑・水色) ・マグネットシート
- ・ブックカバー(透明) ・はさみ ・物差し

*これらは、文房具店・東急ハンズ・ネット販売等で購入する。
色方眼紙がなければ厚紙と色画用紙でもよい。薄緑は黄緑でも可

作り方

- ①色方眼紙をそれぞれ9cm×21cmの長方形に切る。(黒板で使用する場合の大きさ。必要に応じてサイズを変えてよい)
- ②薄緑の動詞と水色の形容詞カードはベース型に切る。上記サイズなら、長辺の端から5cmの所より短編の真ん中に直線を引き、切るとよい。
- ③それぞれの色面を覆うようにブックカバーをかけて、はがれないように固定する(裏面のカバーは必要ないので1cmくらい織り込んで切る)

(名詞カード)



(動詞カード)



- ④裏面にマグネットシートを貼り、黒板等に貼っても落ちないようにする。

- ⑤ホワイトボードマーカーなら、何度でも文字を書いて消して使える。但し油性マジックは不可。6cm×15cmの中型も準備すればさらに便利。

(応用したカード)



「品詞カード」の作り方 (子ども用・小)

準備するもの

- ・色付箋紙(黄色・ピンク・薄緑・水色) 2.5cm×7.5cm ・台紙

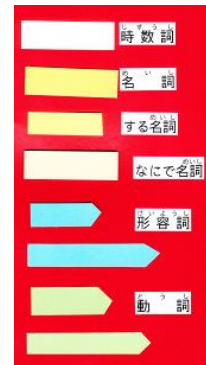
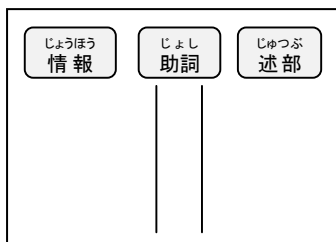
*これらは、文房具店・東急ハンズ・ネット販売等で購入する。

作り方

- ①名詞・時数詞はそのまま使用。動詞・形容詞はベース型にカットする。

- ②適当な台紙に貼り付けておく(右図)。

- ③左のような構文作成用紙を印刷しておき、ここに、ことばを書いた右の付箋紙を貼り付けて文を作る。付箋紙は移動可能かつ使い捨て可。作った文は清書する。



「長い文をつくろう！（複文の作り方）」ーある日の授業からー

- 対象児童 小学部2・3年生4名（*聾学校では中間的な位置にいる児童4名のグループ）
- 指導時間 自立活動
- ねらい 二つの場面をみてそれぞれの単文をつくり、二つの単文を組み合わせることで長い文（複文）を構成することができる。
- 準備
 - ・ワークシート（絵があらかじめ書いてあるものを5種類）
 - ・付箋紙（品詞カード）
 - ・セロテープ

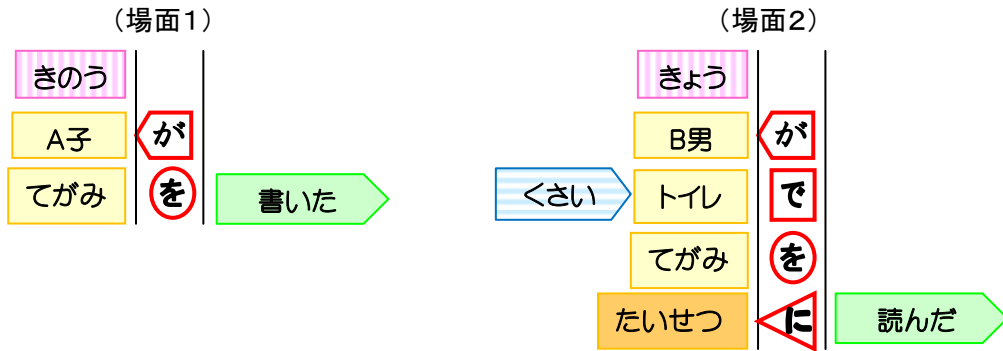


○授業の実際

①絵をみて、それぞれの場面に合った文を作り、付箋に書く。

(例)場面1「昨日、A子が手紙を書いた」 場面2「今日、B男がくさいトイレで手紙を大切に読んだ」

②一つの文にするときの、述部を決める。どちらでもよいが、ここでは場面2を述部を選択。

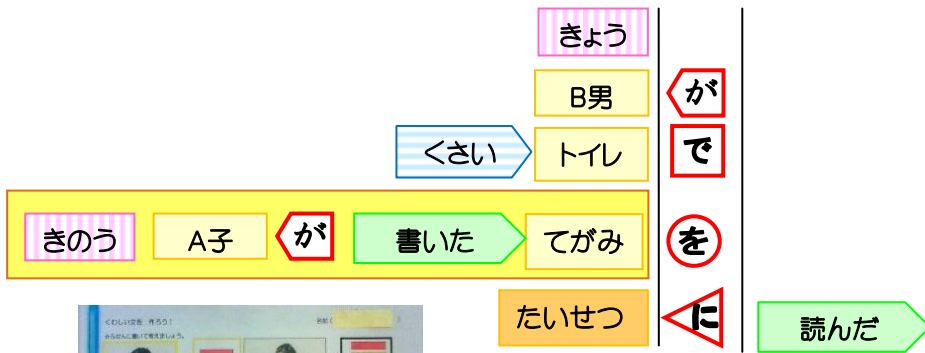


③二つの場面に共通のことばをさがす→「てがみ」

④場面1の文を、「てがみ」を修飾する名詞句（節）に変える



⑤ ④で作った名詞句を場面2の「てがみ」と置き換える



これで複文ができたよ！
順番にやれば必ずできるよ